

さわやかな緑と、みずみずしい香味が魅力。手作りならその用途が広がるキュウリづくり

1 定植時期と収穫時期

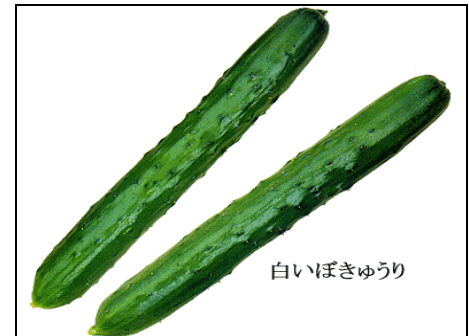
露地栽培 5月上旬定植 6月中旬～8月中旬収穫

トンネル栽培 4月中旬定植 5月中旬～7月中旬収穫

2 品種 南極1号、夏すずみ

3 施肥 施肥例 aあたり(100㎡あたり)

元肥 牛糞堆肥200kg 苦土炭カル10kg
分量は窒素2.6kg, 燐酸3kg、加里2kg
を定植7日前に施用し耕うんする。



4 定植

本圃は日当たり、水はけの良いところを選びます。ウリカ野菜を連作したところは避けます。土壌改良資材で酸度矯正をしておきます。

植え方の例として畦幅90cm、通路幅90cm、株間60cmの2条植えとし、畝の高さは10～15cm程度がよいです。

定植法は直立支柱かネット支柱があり1アールあたり90～100株の苗が必要です。

定植は本葉4～5枚の若苗定植とします。

アブラムシ(ウイルス)防除で、定植時に防除薬剤などを植穴施用します。

植え付け前に苗鉢にあらかじめかん水しておきます。植穴の水分が少ないときはかん水し、定植直後にも根本にかん水してよくなじませます。

5 管理

整枝は主枝1本仕立てとし、目の高さか25節でピンチし株元から5～6節までの側枝、果実は早めにすべて除去し、それ以上の子蔓は2節で止めます。

茎葉が繁茂し過ぎると病気にかかりやすく、側枝が弱くなるので葉かきをします。黄化葉や病気の葉をとるほか、側枝の新葉を覆っている葉は摘除します。摘葉は1回に2～3枚とします。

追肥が遅れると曲がり果や尻太果などの障害果が多く、草勢も衰えるので幼果が鉛筆の太さになった頃から10～15日ごとにします。1回に少量ずつ多回数とした方がよいです。

敷きわらは土のはね返りや土壌水分の保持のために高温期を前に必ず行ないます。

6 病虫害防除

うどんこ病、ベト病、ハダニ、アブラムシ類が発生しやすいです。うどん粉病は夏に発生が多く、ベト病は梅雨時の発生が多いので雨の前後に予防散布をします。

病気が発生したときは病気にかかった葉を除去して治療剤を散布して下さい。

アブラムシ、ハダニの防除を行なって下さい。ハダニは梅雨明けから発生が多くなるので被害葉を除去し防除して下さい。